

第5次播磨町総合計画 基本構想 検討資料

基本構想（案）について

第4次播磨町総合計画

将来像 「まちが いきいき きらめくはりま」
まちづくりのキャッチフレーズ～ 未来につなげる みんなのまちづくり

第4次総合計画策定から今日に至るまでのこの10年で、社会情勢の変化とともに住民ニーズも変化し、本町の今後のまちづくりへの期待も変化しています。

【社会情勢の変化】

- 経済のグローバル化
- 持続可能な世界の実現(SDGs)
- 革新的情報通信技術の発展(AI、IOT)
- 自然災害や環境・エネルギーなど地球規模でのリスク変化
- 住民の価値観の多様化
- 人口減少と少子高齢化の進行 等

【住民ニーズ】

- 今後の定住意向について『住み続けたい』は85.9%で、前回調査に比べると、『やや住み続けたい』の割合が減少。若い世代の『住み続けたい』は6割強。
- 住み続けていくためにあったらよいものとしては、「医療機関や福祉施設が整っていること」が最も割合が高く、次いで「交通の利便性が良いこと」、「治安が良いこと」の順となっている。
- 今後、めざしてゆくべき播磨町の姿は、「安心・安全」が最も割合が高く、次いで「便利さ」、「快適さ」の順となっており、年齢別、地域別のすべてにおいて、「安心・安全」の割合が最も高くなっている。「安心・安全」は、前回調査に比べ大幅に増加している一方で、「活力・にぎわい」については大幅に減少している。

【町長インタビュー】子どもたちには「ふるさと回帰」を期待。播磨町に帰りたくなるまち、今いる人が愛着を持つまちをめざす。

- 持続可能な自治体運営を可能にするための人口減少対策に取り組むことが重要。
- 多様化・複雑化する住民ニーズや行政課題に対応するため、多様な主体が協働して取り組み、課題の解決や地域コミュニティの活性化につなげていく必要がある。
- 「誰一人取り残さない」共生社会の実現をめざす必要がある。
- 住民からは、「安心・安全」「便利さ」、「快適さ」が求められている。



第5次播磨町総合計画 将来像

いいところいっぱい！ 笑顔いっぱい！
みんなで作る ふるさと はりま